

# 「空手道で一番苦しかったこと」

2017年7月1日

月心会 西東京本部 浜田山支部  
阿部 有生

私は2009年3月に、当時小学一年生の長男・哲也とともに月心会に入会しました。空手にはずっと以前から関心があり、いつかはトライしてみたいと思っていました。しかし、さすがに四十の手習いで空手を始めるのは敷居が高く、息子に習わせることを名目に一緒に入会を決めました。

基本を教わり、最初の数年の紫帯までは順調に練習に参加することができました。型試合で3位になり空手の楽しさも味わうことができました。しかし、持病の腰痛・首痛がひどくなり、特に冬場は毎日痛止めを服用するようになり、練習に参加するのがつらくなってしまいました。息子から「今日は練習にいけるのか？」と問われ、言い訳をする自分自身に情けなさを感じたことも多々ありました。結局、私は1年間休会してしまい、その間、空手を続けるかどうか迷い、本当に苦しい時期を経験しました。

その後、体調がなんとか回復し、復帰を決めたときには、支部の皆様に温かく迎え入れていただき、練習を再開することができました。自分の内面と向き合うことの大切さ、一つのことをやり通すことの大切さを改めて空手から学びました。

宗家ならびに市川本部長、畠山支部長をはじめ多くの指導者、リーダーの方々のご指導、また、共に練習に励んだ練習生の励ましがなかったら途中で挫折してしまったと思います。これまでの息子と私への7年間もの親身なご指導、ご支援に感謝するとともに、この支部で空手の練習を続け、更に精進したいという思いが強くなっています。

今後も引き続きご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。